

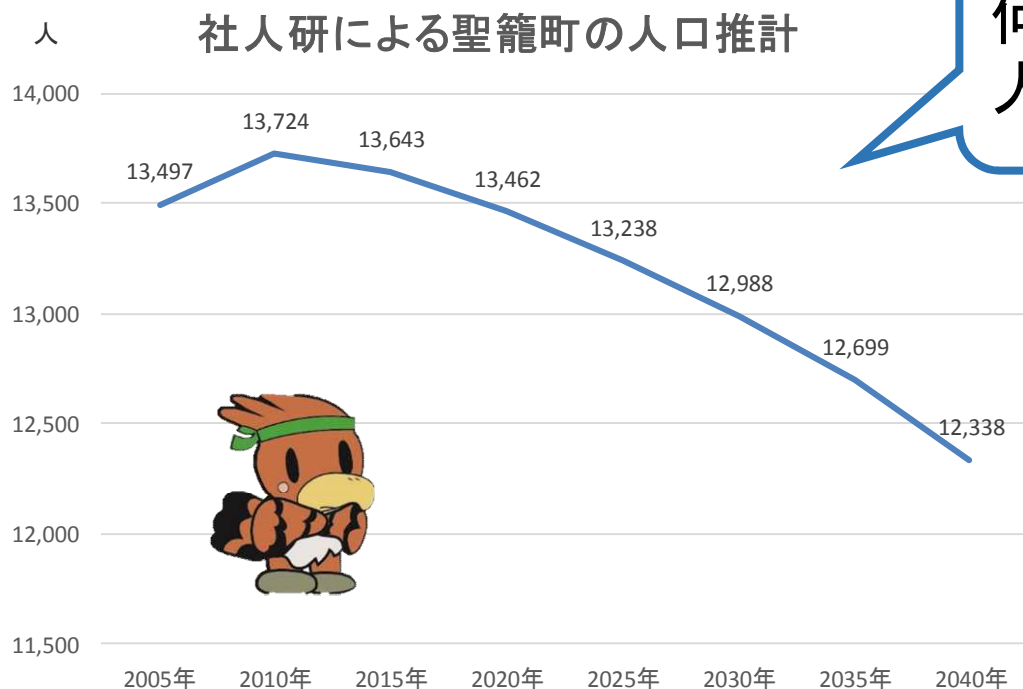
聖籠町生涯活躍のまち構想研究会

報告資料

平成28年12月11日

1-1 聖籠町生涯活躍のまち構想研究会

聖籠町が「生涯活躍のまち」を検討する目的



何も対策を講じなければ、人口は減少していく見込み。

人口が減るということは、集落の存続を維持できなくなったり、現状の行政サービスを継続できなくなったりする恐れがある…

「生涯活躍のまち」は、将来的に町の人口規模を維持するための方策の一つとして有効なのでは？



1-2 聖籠町生涯活躍のまち構想研究会

◆研究会立ち上げ趣旨

国が推進する「生涯活躍のまち」を聖籠町版として導入できるかどうか、調査・研究することを目的に、平成27年12月に立ち上げ。

◆構成員

研究会委員の構成員は、産・官・学・金・労・民の各分野から選出

産・・・民間企業

官・・・行政(町役場)

学・・・大学

金・・・銀行

労・・・労働者(医療法人、社会福祉法人)

民・・・町民



1-3 聖籠町生涯活躍のまち構想研究会

これまで、研究会を4回開催しました。
◆研究会で取り扱ってきた主な内容



- ① 国が進める「生涯活躍のまち」について
- ② 東京圏・県内在住者に移住希望アンケート実施
- ③ 国内先進事例の研究
- ④ 町の福祉の状況
- ⑤ アンケート調査を基にターゲット等の分析
- ⑥ 聖籠町版「生涯活躍のまち」が目指すべき方向性

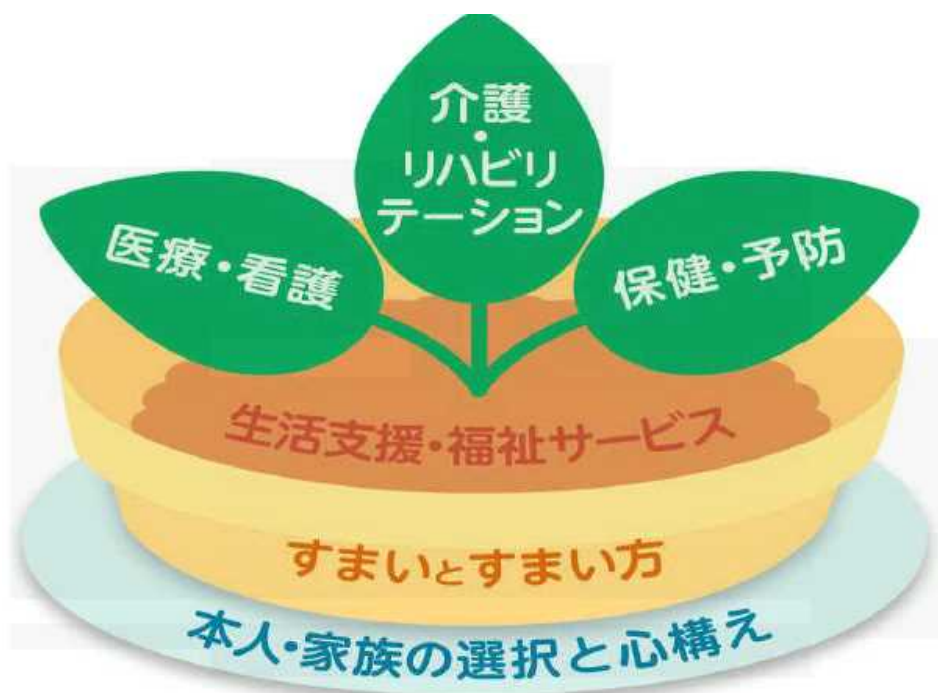
など

2 聖籠町版生涯活躍のまちの方向性

3つの基本コンセプト

基本コンセプト1

「地域包括ケアシステム」を中心とした
生涯活躍のまち



出典：平成25年3月地域包括ケア研究会報告「地域包括ケアシステムの構築における今後の検討のための論点」

2 聖籠町版生涯活躍のまちの方向性

基本コンセプト2

◆若者、ファミリー層、高齢者が
「多世代共生」する生涯活躍のまち



▲国内先進事例の一つ オークフィールド八幡平：住棟



2 聖籠町版生涯活躍のまちの方向性

基本コンセプト3

◆交流機能を導入し、地域に開かれた 生涯活躍のまち



▲国内先進事例の一つ オークフィールド八幡平：レストラン



▲国内先進事例の一つ ゆいまーる那須：ライブラリー

2-2 基本コンセプトの内容

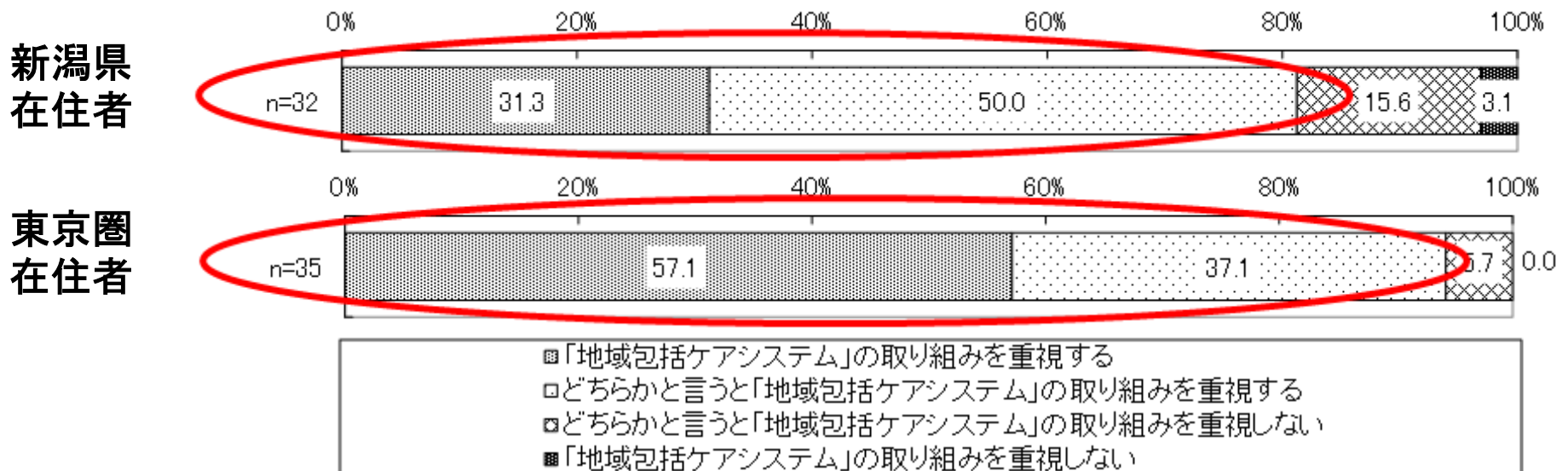
◆「地域包括ケアシステム」を中心とした

生涯活躍のまち



地域特性：介護事業者の充実や新潟聖籠病院の開院
聖籠町移住に前向きな人：地域包括ケアシステム重視

【地域包括ケアシステムに対する関心】

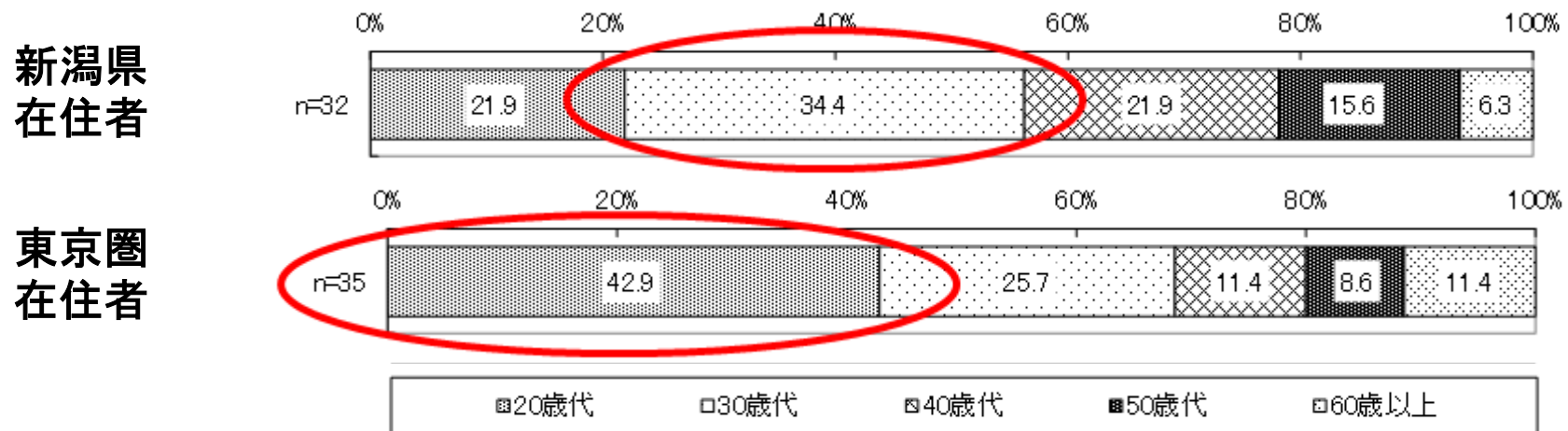


2-2 基本コンセプトの内容

◆若者、ファミリー層、高齢者が「多世代共生」する
生涯活躍のまち

聖籠町移住に前向きな人々は、新潟県在住者では
30歳代、東京圏在住者では20歳代の割合が高い。

【聖籠町に対する移住候補地の可能性】



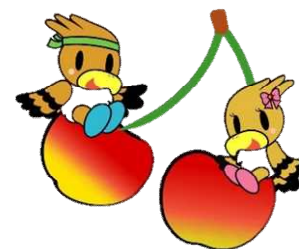
2-2 基本コンセプトの内容

◆交流機能を導入し、地域に開かれた 生涯活躍のまち



先進事例「シェア金沢」では、居住機能（高齢者向け住宅、障害児入所施設、学生住宅）とともに、飲食施設、物販施設などの交流機能も導入。近隣住民の交流拠点となり、活気のあるまちを形成。

聖籠町の生涯活躍のまちも、地域に活力をもたらすものにすべきであり、若者層、ファミリー層、高齢者層の居住機能とともに、町民も入居者も利用できる交流機能を導入し、地域に開かれた「まち」とする。



2-3 行政と民間活力の協働

「生涯活躍のまち」実現に係る事業は、行政がすべて担うものではありません。

◆ 聖籠町（行政）によるもの

例：基本構想・事業計画の策定、地域包括ケアシステムの構築に向けた関係機関との連絡調整、事業の運営を担う企業の選定、移住希望者への情報発信 など

◆ 民間活力によるもの

例：基本構想・事業計画の策定に参画、住宅・関連施設の整備、各種サービスの提供 など



3 生涯活躍のまちのメリット・デメリット

3-1 メリット

◆生涯活躍のまちのメリットを試算

住宅戸数100戸、町内から40人、新潟県内から40人、東京圏から20人が移住すると仮定

●消費効果

シニア層の単身者が町外から移住した場合、移住者1人あたり町内消費支出額は約8万円/月

$60人 \times 8万円 \times 12ヶ月 = 5,760万円/年$

●建設効果

延床面積5,000m²、坪単価90万円と仮定した場合、**建設費は約13.6億円**。町内業者も受注可能。

3-1 生涯活躍のまちのメリット

●雇用創出効果

100戸を想定した場合、8～9名程度の運営スタッフが必要。限られた人数だが、雇用機会創出の可能性がある

●税収効果

個人住民税をはじめとする、税収増が期待される

【60人が町外から移住した場合の年間個人住民税の概算値(単位:万円/年)】

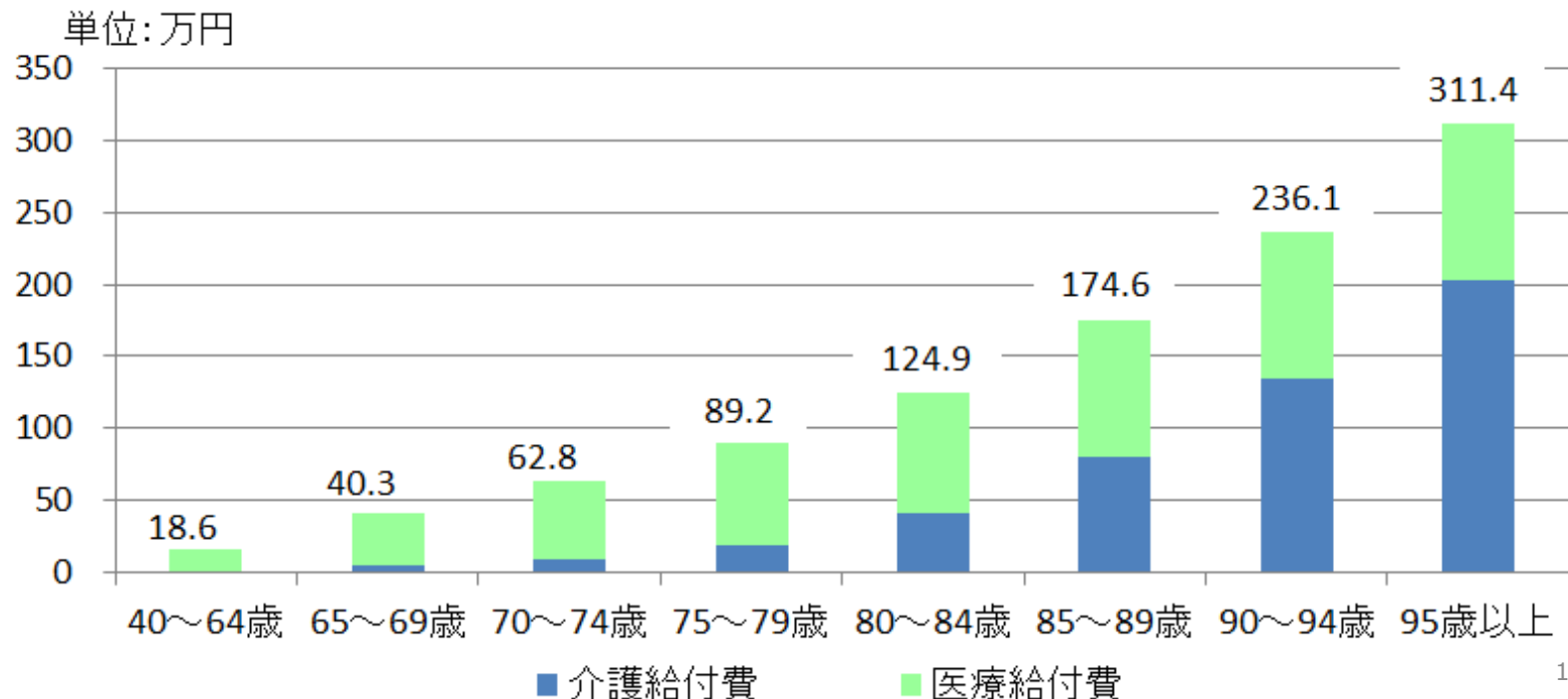
	50歳移住	60歳移住	70歳移住
男性(30人)	392.9	102.7	46.7
女性(30人)	160.2	53.6	37.1
合計	553.1	156.3	83.8

3-2 生涯活躍のまちのデメリット

◆生涯活躍のまちのデメリットを試算

●加齢に伴う、医療・介護給付費の上昇

医療給付費と介護給付費の合計額は、40～64歳であれば年間18.6万円であるが、加齢とともに上昇し、80～84歳では年間125万円と増加する。



3-2 生涯活躍のまちのデメリット

●移住に伴う税金と医療・介護給付費の負担

移住時年齢を50歳、60歳、70歳の3ケース想定し、30年間の税金(個人住民税)と医療・介護負担を試算し、1年の平均値に直して比較

50歳で移住した場合は町財政にとってプラス、60歳以上で移住した場合は、マイナスになる。

【移住者1人1年あたりの税金と負担の試算結果(30年間平均値、単位:万円/年)】

	50歳移住	60歳移住	70歳移住
税金効果	4.4	2.1	1.4
医療介護負担	1.7	3.2	6.1
差し引き	2.7	▲1.1	▲4.7

4 研究会の今後のスケジュール

●一般町民を対象としたアンケートを実施

20歳代～70歳代の男女合計1,000人を対象に、聖籠町版「生涯活躍のまち」構想導入の賛否について調査し、研究会の参考資料とする（平成29年1月実施予定）。

●平成29年3月までに町長へ研究会意見を報告

これまでの研究会内容、シンポジウム参加者アンケート結果、町民対象アンケート調査結果を踏まえ、研究会としての意見をまとめ、町長へ報告。

ご静聴ありがとうございました

